

和の住まいのすすめ【事例編】

――今に生きる日本の住まいの知恵

和の住まい推進リレーシンポジウム 2026

和の住まい推進関係省庁連絡会議

「今に生きる日本の住まいの知恵」について

日本の住まいは、木の柱、土台、はりなどを骨組として、土を用いた壁に塗り仕上げを施し、茅・木板や樹皮・瓦などで屋根を葺く工法により、古来よりつくられてきました。地域で産出され、生産された自然の材料をふんだんに取り入れ、代々受け継がれてきた地域の生産技術が生かされてきました。

外観をみると、屋根は勾配がつけられ、軒は深く出ています。日本は雨の多い国であり、雨水が建物内に浸入すると建物を早く傷めるおそれがあることから、雨への対策はとても重要です。勾配屋根は降雨をいち早く建物の外に追いやる工夫ですし、深い軒は外壁に降雨を当たりにくくする機能をもちます。軒は夏期に強い日射を遮る効果もあります。また、柱、はりのフレームのあいだには大きな窓が取り付けられています。窓には室内に外部の風を取り入れ、太陽の明るい光を導き入れる効果があります。こうした地域の気候の影響を制御し、上手く利用しようとする環境親和型の技術は、現代の住まいにも用いることができ、電力をはじめとするエネルギー需要の抑制が課題となっている今日、一層再評価されるべきものと考えられます。

室内は、畳敷きの和室、戸外とのあいだの縁側、三和土（たたき）の土間、木板を張った板の間があり、それぞれに機能がありました。和室は来客を迎え入れる座敷、家族の集う茶の間など、土間は日常の炊事のための場、農機具や漁具を手入れする作業場などとして使われていました。こうした住まいの複合された機能は、当時の社会や生産体制を背景に必要とされたものであり、現代そのまま必要とされるものではありません。しかし、住まいのなかで営まれた様々な生活シーンは、日常の暮らしに豊かさや奥深さを与えていた面もあると想像され、現代の住まいに多面性を付加することは有用な面もあると考えられます。



勾配屋根・瓦屋根（富山）



深い軒・縁側・すだれ・掃き出し窓（熊本）（写真：①）



和室・続き間・襖・障子（山形）（写真：②）

かつての日本には、このように地域で循環する住まい、長持ちする住まい、心地よく過ごせる住まい、多様な暮らしを許容できる住まいを実現するために、工夫が施された様々な要素が取り入れられていました。この「和の住まいのすすめ　～今に生きる日本の住まいの知恵～」は、それらの手法・技法や営まれていた住まい方を再確認し、現代における住まいづくりの参考になる考え方や技術的な内容を紹介します。

本編は、これから住宅の新築、購入や改修を行おうとする一般のユーザーの方の参考書として、工務店や住宅メーカー、素材生産者などの住まいづくりに携わる事業者がユーザーの方と情報を共有するツールとして、利用していただくことを想定しています。そのため、伝統に根ざした住まいづくりの手法・技法や住まい方の実例を交えて、住まいづくりの考え方や住まいを構成する要素をまとめています。実例は、様々な地域の住まい、伝統的な住まいと現代の住まい、現代の集合住宅などから、巾広く取り上げています。

これから住まいづくりを考える方に広く活用されることを願っています。

目　次

住宅事例

2　事例１　家族とともに過ごす場面づくりを支える住まい

4　事例２　外部環境と親和し心地よい暮らしを支える住まい

6　事例３　ひとつながりの空間で豊かな暮らしを内包した住まい

8　住まいづくりの目的と対応のしかた

●本編に掲載の写真・画像の出典および提供者（各写真・画像に番号を記載）

① 古川保／古川設計室
② 阿部利広／阿部建築研究室
③ サン工房
④ アライ
⑤ 阿部建設・岡村靖子（写真）
⑥ 小松秀行建築工房

※表紙の写真は小松秀行建築工房が提供。

記載なき写真・画像はアルセッド建築研究所が提供。本編の記事、写真、図版等の無断転載を禁じます。

和の住まいのすすめ ― 今に生きる日本の住まいの知恵

発　　行　　和の住まい推進関係省庁連絡会議
令和８年 11 月
印　　刷　　株式会社橋本確文堂

編集協力　　一般社団法人木を活かす建築推進協議会　　株式会社アルセッド建築研究所

「日本の住まいの知恵に関する検討調査委員会」（委員長：小林秀樹千葉大学大学院教授、事務局：公益財団法人日本住宅総合センター）における検討内容を基にとりまとめたものを再構成したものです。

この冊子の文章・写真・表等の無断複製・転載を禁じます。

和の住まい推進関係省庁連絡会議は、日本の住まいや住文化の普及に取り組むことを目的として設立されました。
文化庁　　農林水産省　林野庁
経済産業省　国土交通省　観光庁

事例１　家族とともに過ごす場面づくりを支える住まい

場を演出する・共有する ／ 縁側　床の間　吹抜け　坪庭　植栽



南側の外部に開かれたつくり。軒庇・差し掛けや雨戸で光や雨水を制御



猫間障子と床のある和室。季節や天候・時間により趣きが変わり楽しめる



吹抜け回りの開放的な部屋の配置

所在地	静岡県浜松市
階数	２階建て
延べ面積	330.37㎡
設計	サン工房
施工	サン工房
竣工年	2017 年

● p.2,3 に掲載の写真の提供者は全て③

人と人の関係を守り育てる

家族が見守り合い、成長する

プライバシー空間以外の各室相互の仕切りには引き込み可能な建具や格子戸を採用して常に家族の声や気配が感じられる開放的なしつらえとしています。また、中央にある吹抜けを介して室相互が視覚的にもつながっています。縁側は家族が一緒に腰かけて寛げるゆとりのある共用スペースとなっています。
家族が共に過ごせる場を設けることにより、家族が時間を共有し、お互いを気にかける暮らしを支えています。


吹抜け回り。隣の部屋がよく見える格子戸


チェアーで寛げるゆとりのある縁側

日々の暮らしを楽しむ

暮らしのなかで、楽しみや豊かさを味わう

室内の随所に掛軸や草花を配した床の間・飾り棚・装飾を施した欄間などの暮らしに潤いや落ち着きを与える様々な装いが施されています。
戸外の緑や柔らかな光を感じられる窓を設けるなどの工夫も施されています。
様々な装いにより懐かしさ、落ち着き、愛着が感じられ、また、自然とのふれあいも備えた居心地のよい空間を実現しています。


床の間。壁に窓を設け緑や光を感じられる

自然の変化やその風合いを感じとる

構造材には地元天竜材の木材を用いて、内外装材には木・石・草（畳）・紙・漆喰を用いるなど、多くの自然素材を使用しています。
また、各所に坪庭など室内から自然を感じられる小さな庭を設けています。
時間の経過とともに自然素材が豊かな味わいを醸し出していく様子や、季節とともにうつり変わっていく戸外の自然の様子などを室内にいながら楽しめるようになっています。


坪庭は通路を明るくし、自然を感じさせる

心地よく環境にやさしい生活を支える

夏の快適、涼やかな生活に寄与する

南側に配した六畳の和室には軒の出の大きな高さを抑えられた屋根がかけられ、夏期の強い日射を遮ることができます。また、全方位に開口が設けられ、全ての建具を引き込み戸としています。戸外と室内がゆるやかに連続し、室内でも戸外のように自然の風による涼感が得られ、室内空気の循環もうながされ快適に過ごすことを可能としています。


掃き出し窓は引き込み戸により大きく開放できる

事例２　外部環境と親和し心地よい暮らしを支える住まい

関係をつなぐ・遮る ／ 越屋根　深い軒　続き間　引戸・襖



開口部が連続する外部に開き、閉じることのできるつくり。切妻の瓦屋根には越屋根を設置



内部は引戸を多く用いている。軸組、小屋組材を現しにしている



上部に差し掛けのある、引き分けの格子戸による玄関で人を迎える

所在地	群馬県桐生市
階数	平屋建て
延べ面積	135.85㎡
設計	一級建築士事務所マルスプランニング
施工	アライ
竣工年	2002 年

● p.4,5 に掲載の写真の提供者は全て④

心地よく環境にやさしい生活を支える

夏の快適、涼やかな生活に寄与する

外壁軸組の外側への断熱材の付加や、化粧野地裏に断熱を施すことにより、断熱性を高めつつ伝統的な内部真壁の意匠、小屋組現しの空間をしつらえています。屋根は軒を深く出し日射を遮るとともに、越屋根を設け採光と換気をうながします。日射の制御や自然風の取り込みの工夫により、中間期などにできるだけ設備に頼らずに涼やかに過ごせる生活を実現しています。



中間期には縁側の内外の建具を開放し通風をうながす



開放的な小屋空間と採光・換気をうながす越屋根

冬の快適、あたたかな生活に寄与する

和室（茶の間）の西側と北側には縁側を設け、外部との境界部は連続する掃き出し窓とし、ガラス戸と雨戸をしつらえています。建物周囲の外部床には蓄熱のためのコンクリートの土間を設け床下と連続させています。
大きな空気層の縁側は緩衝空間であるとともにコンクリート土間は日射熱を蓄え床下を介して室内に放熱することにより、冬期の夜間などの急激な気温低下を緩和させ、できるだけ設備機器に頼らないであたたかに過ごせる生活を実現しています。



大きな開口と縁側空間。日射取得と断熱に寄与

日々の暮らしを楽しむ

自然の変化やその風合いを感じとる

構造材には地元群馬県産材の木材を用いて、内外装材には木・石・草（畳）・紙・漆喰を用いるなど、多くの自然素材を使用しています。大きな外部開口部や越屋根には頂側窓を設け、室内から光や風などの自然を感じられるようになっています。
時間の経過とともに自然素材の風合いが増していく様相を感じることができ、素材による調湿や消臭の効果なども期待され、人に優しい空間を実現しています。



構造材、内装に自然素材を活用し、風合いや変化を楽しむ

外的環境から建物を保護する

家をいためる自然の力を和らげる

屋根や軒庇は軒の出やけらばの出を確保した勾配屋根とし、雨水を速やかに建物の外に排出するとともに、できるだけ外壁が雨に当たらないように建物を守っています。降雨時などは雨戸を閉鎖し開口部を保護します。また、内部の構造材の多くを現しとしています。自然の大きな力に対して逆らわずに力を和らげるとともに、木材を空気に触れさせて乾燥をうながすなど、住まいを長もちさせるように配慮しています。



軒庇で外壁を保護



閉鎖した雨戸

事例３　ひとつながりの空間で豊かな暮らしを内包した住まい

一体化する・取り込む ／ 畳(小上がり) 吹抜け　前庭　建物配置



建物周囲に庭や緑を配し、敷地内で環境づくりを完結



２階と開放的につながる斜め天井のある小上がり



人を迎え入れるしつらえの玄関アプローチ



天井高さを抑えられた１階と吹抜けを介して２階の空間が連続

所在地	愛知県小牧市
階　数	２階建て
延べ面積	105.28㎡
設計	阿部建設
施工	阿部建設
竣工年	2019 年

● p.6,7 に掲載の写真の提供者は全て⑤

人と人の関係を守り育てる

人を迎え入れ集う

建物の西側に玄関アプローチを設け、落葉樹を含む多様な種類と大きさの植栽や石を配するとともに、味わいのある洗い出し床仕上げによる豊かな外部空間を創出しています。この玄関アプローチは道路に沿って建物に対して斜めに取り付けられているため、視覚的な変化を与えています。住まいを訪れる人が落ち着きを感じるとともに来訪の期待感を高められる豊かな空間を実現しています。



通りから玄関までの緑豊かなアプローチ

家族が見守り合い、成長する

リビングダイニングには南側の豊かな緑の庭を楽しめる引込みできる大きな開口が設けられています。ダイニングと隣りのキッチンは、２階への動線上にある小上がりとひとつながりになっています。小上がりの上部には梁を現しにした屋根がかけられ、２階のプライベートゾーンへと続く開放的な吹抜けとなっています。
家族が集う場が連続感のある空間としてしつらえられ、家族が時間や空間を共有することを大切にするライフスタイルを実現しています。



家族の共用空間を充実させた
連続性の高いリビングダイニングと小上がり

日々の暮らしを楽しむ

暮らしのなかで、楽しみや豊かさを味わう

構造材には東濃産材などの木材を用いて、２階にアクセスする階段手前の動線途中に木・草（畳）・紙・漆喰などの自然素材を用いたコンパクトな小上がりの畳の間･板の間を設けています。この小上がりは家族がリラックスして過ごせる共用の場でありながら、家族のそれぞれが思い思いの多様な過ごし方にも対応できる融通性の高い空間となっています。自然素材の利用は柔らかで温かみのある空間を演出しています。



２階吹抜けに面し、小上がりと開放的につながる

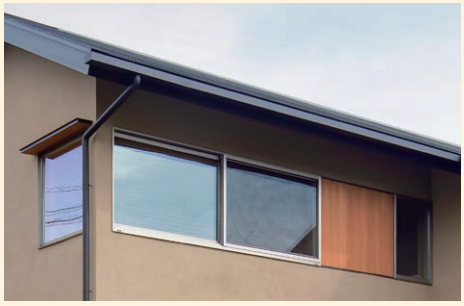


多くの自然素材を用いた多様な用途に対応可能な小上がり

外的環境から建物を保護する

家をいためる自然の力を和らげる

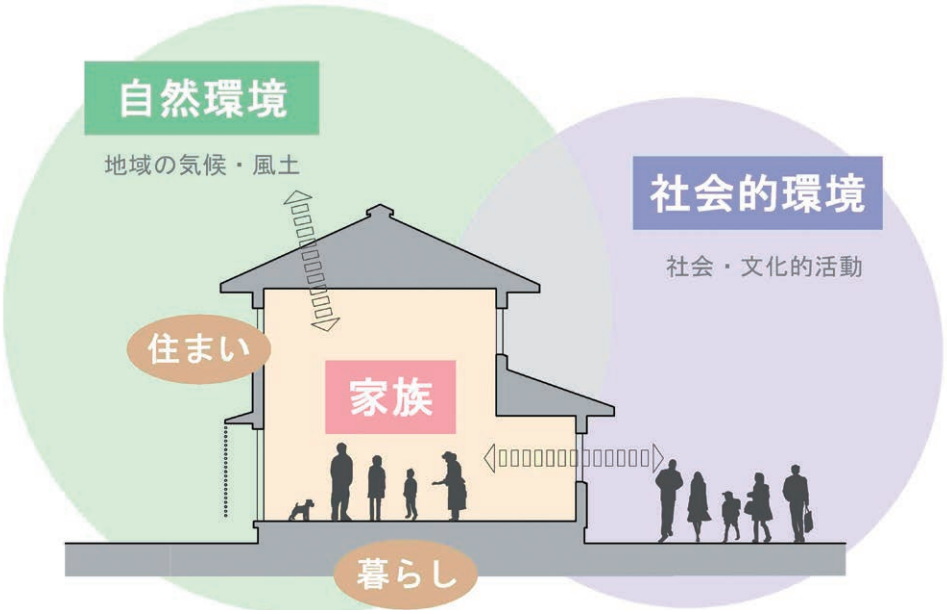
屋根は軒の出やけらばの出を確保した５寸勾配の屋根とし、雨水を速やかに建物の外に排出するとともにできるだけ外壁が雨に当たらないように建物を守っています。開口の上部には窓庇を設け、開口からの雨の浸入を防ぐようにしています。
室内は一部の構造材を現しとし、開口部を南北に風が抜ける配置とすることで、木材の乾燥をうながしています。
自然の大きな力に対して逆らわずに力を和らげる工夫を随所に施し、住まいを長もちさせる配慮をしています。



開口部からの雨水浸入を防止する軒の出と窓庇

住まいづくりの目的と対応のしかた

日本の住まいと住まい方は、古来より、地域の自然環境に呼応し、かつ、社会的環境や家族関係の変化の中で形成され、受け継がれ、発展してきました。この自然環境、社会的環境、家族関係のなかでつくられ、継承されてきた日本の住まいとそこでの暮らしを再確認することを通じて、現在における住まいづくりの参考になる考え方や設計手法などを見出すことができます。



昔も今もかわらない―住まいと暮らしをとりまく自然／社会／家族

これから住宅を取得（建設または購入）することをお考えの一般のユーザーの方は、どのような住まいにすることを望んでいるでしょうか。ユーザーの方の中には、次の住まいや暮らしのイメージがつかずに、迷っている方も多くいるのではないでしょうか。この手引きでは、住まいづくりの目標像となるようなテーマを整理し、「住まいづくりの目的」として掲げています。自然環境、社会的環境、家族関係のなかで築かれ、使われてきた日本の住まいのありようから、現在における「住まいづくりの目的」を次のとおり４つ設定しました。

住まいづくりの目的	**人と人との関係を守り育てる** **日々の暮らしを楽しむ** **心地よく環境にやさしい生活を支える** **外的環境から建物を保護する**

この「住まいづくりの目的」は、ユーザーの方が住まいづくりで大切にしたいことを考える際の指針になるものと考えています。右のページにそれぞれの具体的内容と効果をチェックシートに示しますので、大切にしたいと思うテーマがあるかどうかチェックしてみてください。

住まいづくりの目的チェックシート

住まいづくりの目的		効果
人と人との関係を守り育てる	人を迎え入れ集う □ 来訪者を気持ちよく迎える □ 集いをうながす	暮らしは「社会」のなかで営まれ、人と人の関係の中で成立しています。住まいに交流の場を設けること、人との関わりに配慮したしつらえを施すことは、社会的な生活を育み、住生活のみならずそれをとりまく地域社会を豊かにしていくことにつながります。
	家族が見守り合い、成長する □ 家族の集いをうながす □ 家族の気配や様子を感じる	「家族」の生活や成長の器としての住まいのつくりは、家族相互の関係に少なからず影響を及ぼします。家族がお互いに心を配り、尊重し合う関係の形成に寄与するような住空間や各部のつくりが大切となります。
日々の暮らしを楽しむ	暮らしのなかで、楽しみや豊かさを味わう □ 和の意匠を味わう □ 趣味を実践し楽しむ □ 思い出を受け入れ、心を落ち着かせる	住まいは食事、就寝など基本的な生活行為の場であると同時に、「社会」の中で形成されてきた文化的な様々な行為や活動を楽しめる場でもあります。そのような場を住まいのなかに形成することは、日々の暮らしに豊かさ、深み、緊張感などを与えます。
	自然の変化やその風合いを感じとる □ 自然の素材を味わい、継承する □ 四季の変化を感じ、楽しむ □ 光を採り入れる、制御する	「自然」とのふれ合いは、私たちの気持ちに落ち着きや潤いを与えてくれます。住まいのなかに、自然を感じられる空間を形成する、自然の素材を活用してその変化や風合いを楽しめることは、日々の暮らしに一層の彩りを添えてくれます。
心地よく環境にやさしい生活を支える	夏の快適、涼やかな生活に寄与する □ 自然の風を取り込み涼感を得る □ 日射を遮り室内への流入を抑える	夏期の高温・多湿な気候に対して、日射の遮蔽や自然風の活用による採涼は、従来から住まいに工夫して用いられてきました。夏期や中間期の「自然」を制御し活用することは、生活時の省エネルギーにも寄与します。
	冬の快適、あたたかな生活に寄与する □ 熱移動を調節し寒さを緩和する □ 日射熱を集め蓄えて暖かくする	冬期の低温な気候に対して、日射熱の活用や熱の調節による採暖は、夏の対策ほど意識されてこなかったものの、かつての住まいのなかに効果が得られる要素もあります。それらを工夫して用い、冬期の「自然」を制御することは、暖房エネルギー消費の削減にも寄与します。
外的環境から建物を保護する	家をいためる自然の力を和らげる □ 風雨から建物を守る □ 湿気から建物を守る	強い雨風、大雪、高い湿度といった「自然」の環境要素は、それが長期間にわたり過度に建物に作用すると、建物を傷める要因となるおそれがあります。各部のつくりや材料の使用法に工夫をこらし、地域の気候風土のなかで長寿命な住宅とすることが大切です。

